

会 議 録

会 議 名	平成28年度第3回小金井市文化財保護審議会（第6期）		
事 務 局	生涯学習課 文化財係		
開 催 日 時	平成28年11月9日（水）午前10時から10時30分		
開 催 場 所	小金井市文化財センター学習室		
出 席 委 員	田中委員長 二宮委員 孤島委員 鈴木委員		
欠 席 委 員	伊藤委員		
事 務 局 員	石原生涯学習課長 山崎文化財係長 高木主事（学芸員）		
傍 聴 の 可 否	可	傍 聴 者 数	無
傍聴不可・一部不可 の場合は、その理由			
	<p>1 報告事項</p> <p>(1) 文化財ウィーク主催事業について</p> <p>(2) 玉川上水・小金井桜整備活用事業について</p> <p>(3) 文化財説明板の設置について</p> <p>2 視 察</p> <p>(1)文化財センター企画展示</p> <p>(2)市内文化財等視察</p> <p>① 浴恩館、空林荘跡 ⇒ ② （国史跡）玉川上水、（国名勝） 小金井サクラ 平右衛門橋 ⇒ ③ サンシュユ及び後継樹 ⇒ ④ 梶野の築樋 ⇒ ⑤ 応永廿九年銘薬師如来像 ⇒ ⑥ 市杵島神社 ⇒ ⑦ 亀久保田圃</p> <p>3 次回日程</p> <p>平成29年2月22日（水）午前10時～ 市役所第二庁舎8階801会議室</p> <p>4 配付資料</p> <p>(1) 文化財センター企画展「小金井のまつりと民俗」</p> <p>(2) 文化財講演会「修復された仏像」</p> <p>(3) 視察資料</p> <p>(4) 月刊こうみんかん9、10、11月号</p> <p>(5) 東京の文化財（No.121）</p> <p>(6) 文化財ウィーク2016パンフレット（通年用・企画展用）</p>		

会 議 結 果

- 田中委員 皆さん、おはようございます。今日は審議よりも、既存の指定文化財、玉川上水等の視察に重点を置いていきたいと思えます。
それでは、最初に報告事項を事務局からお願いいたします。
- 高木主事(学芸員) それでは、その前に、今日配付しました資料の確認をさせていただきます。まず、本日の次第ですね、それから企画展示のチラシ、文化財講会のチラシ、加えて視察する際の資料でございます。
- 山崎文化財係長 それ以外には、東京の文化財第121号、生涯学習部公民館発行の月刊こうみんかん、文化財ウィーク2016のパフレット（通年公開編）と（特別公開、企画事業編）の2冊でございます。また、前回の会議録、事前にご連絡いただきました校正分については、訂正済のものを配付しております。ご覧いただき、訂正箇所が追加ございましたら、今月15日までにご連絡いただければ、対応させていただきます。無ければ、ご了解済みとして、11月16日からホームページに掲載させていただき、書類は情報公開コーナー等に配置し、公開とさせていただきますので、ご了承願います。
- 高木主事(学芸員) それでは、次第に沿って報告させていただきます。
3点ございます。
1つ目は、本年度の文化財ウィーク主催事業についてです。
文化財センター企画展は、「こがねいの祭りと民俗」をテーマに、11月1日から12月25日までの期間開催しております。展示企画は、学芸員の多田が担当しました。展示では、神楽囃子のように現代にも継承されている伝統芸能や、すでに途絶えた民俗等を紹介することにより、地域の歴史を知っていただくとともに、文化・伝統の普及に繋げていきたいと考えております。
文化財講演会は、「修復された仏像」というテーマで、11月12日に開催します。講演会では、平成27年度に修復された市指定有形文化財である『木造閻魔王坐像』について、修復に携われた仏師でもある岩崎靖彦氏を講師にお招きし、修復のお話から仏像に関する基礎的知識を含めてお話しいただく予定です。
史跡めぐりは、11月19日（土）の午前9時から正午まで実施します。小金井のおこりの1つである、中町周辺の文化財や遺跡を歩きます。参加申込者は23名で、案内は事務局で行います。
2つ目は、玉川上水・小金井桜整備活用事業についてです。
玉川上水・小金井桜整備活用事業を検討し、推進していくために、学識経験者、有識者で構成される専門委員会の会議を9月から再開しております。また、庁内関連部署の管理職で構成されたプロジェクト会議も再開いたしました。この事業の柱の1つである、平右衛門橋が完成しておりますので、今後は、専門委員会の中でヤマザクラの補植と緑道の整備という2つの事業に係る方針を立てて、小金井桜復活に向けて進めてまいります。また、先月10月13日に住民説明会を開催し、玉川上水及び小金井桜の整備事業の作業状況について報告がされました。

今年度は、ヤマザクラの欠損箇所にも苗木を10本補植します。

その苗木に影響を及ぼす樹木は、11月中旬から東京都水道局が伐採をはじめ、その後、東京都教育庁によるヤマザクラの補植が年明けに実施される予定です。

3つ目は、文化財説明板の設置についてです。市指定有形民俗文化財「宝永五年六十六部廻国供養塔」については、本審議会においても、説明板設置の必要性が求められていたところでした。説明板作製に向けた準備をすすめ、文案につきましては事前に委員の皆様にご意見を伺いました。説明板は供養塔の所在する、中町二丁目にごございます『はけの森緑地2』に明後日11日に現地に設置する予定です。

田中委員 平右衛門橋が完成した現在、歩道橋工事と共に撤去されたCOCOバスの停留所はどのようになったのですか。

石原生涯学習課長 COCOバスの停留所は、歩道橋がはずされる工事着工の際に、乗降に十分な場所が確保できないことから、一旦撤去されまして、「小金井公園入口」停留所が無い状態の期間がございました。現在は、平右衛門橋も完成し、停留所は復活しております。歩道橋の撤去後の周辺利用者からのご要望による、信号機と横断歩道を安全な場所に移設する工事も今年度中には実施予定となっており、周辺道路も歩行者に安全な状況に整備される予定となっております。

田中委員 そうですか。それは良かったですね。本日は、この後に視察ですね。本日は、文化財センターで開催されている企画展を見る時間はあるのでしょうか。

高木主事(学芸員) 本日の視察先には、伺う時間帯を事前にお伝えして、ご説明をお願いしている方もいらっしゃいます。予定どおりこちらに戻り、駅まで委員の方をお送りするためには、視察に出発する前に、ご覧いただくこととなります。時間に余裕がなくて申し訳ないのですが。

田中委員 それでは、視察の前に、文化財センター企画展も是非ご覧いただきたいと思います。本日の会議はこれまでとします。

次回は、平成29年2月22日(水)午前10時から、いつもの会議室(第二庁舎801会議室)です。

<この後、センター内の企画展示を見た後、高木主事(学芸員)の案内により、①玉川上水平右衛門橋 ⇒ ②サンシュユ及び後継樹 ⇒ ③梶野の築樋 ⇒ ④応永廿九年銘薬師如来立像 ⇒ ⑤市杵島神社 ⇒ ⑥亀久保田圃 を視察。内容については資料参照>

<視察先説明追記>

②松島家のサンシュユ及び後継樹

昭和49年2月27日に市の天然記念物に指定。経年劣化による枯死のため、審議会の視察も経て、平成26年11月11日に指定解除。この時の審議会の際に、後継樹を育ててくださる方がいたらとの話題も出

たことから、今回杉山造園の方が接木により、後継樹（クローン）の生育を順調に進めているとの情報を得て、様子を視察。

⑥ 亀久保田圃

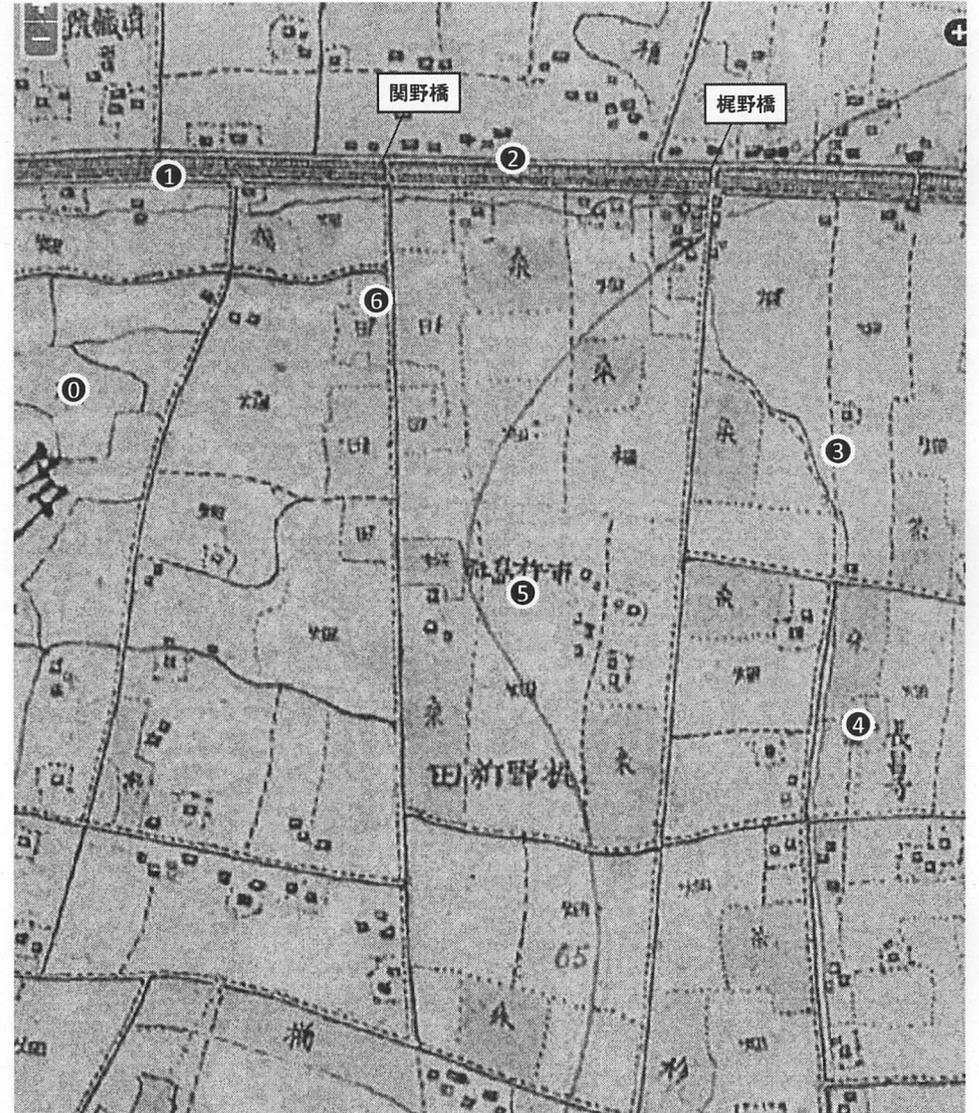
実施期間中の文化財センター企画展「小金井のまつりと民俗」で取り上げた花火大会が実施された場所でもあった。

小金井市文化財保護審議会 視察資料

平成28年11月9日(水)



現在



速測図(1880年代)

① 欲恩館

(市史跡)

空林荘跡

(市史跡)

【欲恩館】

昭和3年(1928)に京都御所で行われた昭和天皇の即位式の際に、神官の更衣所として使用された建物を財団法人日本青年館が下賜を受け、昭和5年(1930)に分館として開館したものである。昭和6年(1931)から全国の青年団指導者養成のための講習所が開設され、昭和8～12年(1933～37)まで下村湖人が所長を務めた。

戦後はユースホステル、青少年センターとして利用されてきたが、老朽化に伴い、平成5年(1993)に改修整備し、文化財センター(保存展示施設)として開館した。なお、空林荘は、平成25年(2013)2月に焼失した。

【空林荘跡】

講習期間中、湖人は空林荘に寝泊まりし、講習生の指導に当たった。湖人はこのころから『次郎物語』の執筆を始めた。第五部に登場する「友愛塾」と「空林庵」は、欲恩館の青年団活動がモデルである。平成25年(2013)2月に焼失した。

【武道場】

市内出土の考古資料や寄贈民具を収蔵する木造倉庫棟。

① 玉川上水

(国史跡)

小金井(サクラ)

(国名勝)

平右衛門橋

【国指定 史跡玉川上水】

承応2年(1653)、羽村から四谷大木戸まで約43kmの上水路が完成。その後、武蔵野台地の村々に分水が許され、地域の開発に大きな役割を果たした。しかし、昭和40年

(1965)に淀橋浄水場の廃止に伴い、小平監視所より下流の通水が止まり、上水路としての役割を終え、平成15年(2003)に、近世・近代の土木遺構としての学術的価値が認められ、開渠部分約30kmが国の史跡に指定された。

【国指定 名勝小金井(サクラ)】

玉川上水堤の桜並木は、武蔵野新田開発の時代の元文2年(1737)頃、幕府の命により川崎平右衛門等が吉野山や桜川をはじめ各地の山桜を取り寄せ、小金井橋を中心とする上水の両岸東西6kmに植えたものといわれる。江戸の文人等が紀行文で紹介し、歌川広重が錦絵に描き、江戸近郊の桜の名所になった。植物学者三好學博士の研究や、地元の小金井保桜会の保護活動が実り、国の名勝に指定された。

【平右衛門橋】

玉川上水に架かる歩道橋を撤去し、新たな鑑賞スポットとして人道橋を架設。江戸時代に武蔵野新田開発に尽力し、ヤマザクラ並木を植樹した、川崎平右衛門定孝に由来する。橋の構造は、フィーレンデル橋。玉川上水に架かる橋は、従来、その時代の最先端の技術を用いられていたことから、現代の最先端のものであり、かつ史跡・名勝景観にふさわしいものというコンセプトのもと、この構造が採用された。



歩道橋撤去前



平右衛門橋 施工後

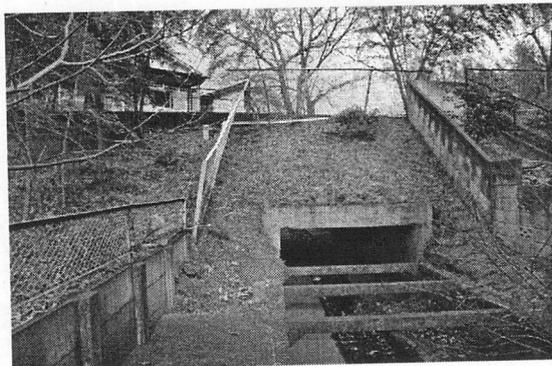
② サンシュユ及び後継樹

江戸時代、新田開発のために陣屋が置かれた関野新田の村役人をつとめた松島家に、幕府から川崎平右衛門を通じて、新田開発成功の賞として贈られたものの一本と伝えられ、市内では最も古い木（樹齢270歳）であった。サンシュユは、ミズキ科の落葉小高木。
※「松島家ノサンシュユ」昭和49年2月27日天然記念物指定。平成26年11月11日、経年変化による枯死のため指定解除。

杉山氏（造園業）による後継樹（クローン）の成功、順調に生育が進む。

③ 梶野の築樋

長さ約230m、高さ約4mの土木遺構。この築樋は、仙川の窪地や谷を越して水を通すために低地に土を盛ってつき固めて土手を築き、その上を用水路（梶野分水）としたものである。梶野分水は、新田開発にあたり、名主等が何度も幕府に上水の分水を願い出、享保17年（1732）にようやく許可された。



④ 応永廿九年銘薬師如来立像

（市指定文化財）

応永29年（1422）銘の薬師如来立像。像高30.7cmで、関東地方で多く見られる鉄仏風の特色をもち、制作年の明らかな中世の仏像として貴重なものである。平田兵衛が家内の無病息災を祈願し、道義という人物が製作したという銘文があり、由来は不明である。長昌寺（曹洞宗）は、釈迦如来を本尊とする。梶野新田の開拓主の梶野家が開基で、埼玉県栢間村から明和4年（1767）に梶野新田の菩提寺として引寺された。

⑤ 市杵島神社

梶野新田の鎮守で、祭神は市杵島姫命。享保17年（1732）創建。御神体は十五童子像である。境内に慶応元年（1856）に富士講が寄進した石灯籠がある。参道口の小祠に宝永2年（1752）の青面金剛庚申塔がある。近くにある2本の黒松は、明治2年（1869）、御門訴事件で捕縛された若者が赦されて帰ってきた時、記念に植えたものと言われている。

⑥ 亀久保田圃

亀久保は、市杵島神社のある小高い台地を取り囲む仙川の低地である。深大寺用水を引き「ため池」を造り、水田が開かれ「亀久保田圃」と呼ばれた。武蔵野段丘上の水田は極めて珍しいものであったが、明治39年（1906）、水利権を国に売却し、水田は消滅した。その後、しばしば田圃跡で名物の凧あげや、打ち上げ花火が行われた。